

科目名	教育制度				試験	60%		
	必修・選択	必修	授業形態	講義			レポート	—
担当者	小林 建一	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期	評価の方法	提出課題	—
							授業態度・意欲	10%
授業のねらいと概要		教育制度に関わるさまざまな歴史的・法制的・時事的な問題や課題について学び、視野の広い保育者として必要な知識・教養を身につけるとともに、教育・保育実務に対応できる基礎的な態度や能力の形成を目指す。テキスト・プリント等による学習を中心とするが、必要に応じて討議や発表等を行う。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・教育制度の基本的な知識を身につけ、教育を制度面から理解できるようになる。 ・教育への法や政治などのかかわり方について思考し、判断する能力が身につく。 ・制度に対する批判や制度のあるべき姿について自らの考えを表現する力が身につくと同時に、学習成果を教育・保育の現場において活用する技能の基礎が培われる。 ・子どもの権利を保障する教育のしくみへの関心・意欲・態度が育つようになる。 						
学習者への期待(含準備学習)		事前にテキストの該当箇所を読んでおくことが望ましい。授業中に生じた疑問点等については質問するなど、学習への積極的な取り組みを期待する。						
回	授業計画			授業内容				
1	公教育と保育制度			私事と公制度としての保育、保育にかかわる免許や資格(あらましを説明し、相互の関係を整理するワークを課す。)				
2	法制はなぜ必要か			法にはどんな種類があるか、教育法の体系とは(法および教育法の構造を具体的に明らかにし、法制の必要性について考えてもらう。)				
3	教育を受ける権利と法(1)			子どもの権利と憲法、法律、条約、憲章のかかわり(各関係を対話方式で明らかにし、子どもの教育にとっての意味を探究させる。)				
4	教育を受ける権利と法(2)			教育基本法の役割(全条文の意味と解釈を対話方式により明らかにし、教育にとってどのような役割を果たしているか考えてもらう。)				
5	就学前教育制度について			幼保二元体制、幼保一元化(テキストを参考にしながら、自分なりに制度を構想し、記述するワークを課す。)				
6	義務教育制度について			義務の意味、初等教育制度(内容を説明し、自己の体験からこれらの制度のもつ意味を考え、発表する機会とする。)				
7	学校教育制度のあらまし(1)			中等教育制度、高等教育制度(あらましを説明し、自己の体験に照らしてこれらの制度のもつ意味を考えてもらう。)				
8	学校教育制度のあらまし(2)			特別支援教育制度、私立学校制度(あらましを説明し、これらの制度がなぜ必要かを考えてもらう。)				
9	社会教育・生涯学習のあらまし			社会教育・生涯学習とは、幼児期の発達と生涯学習(内容を説明し、学校教育以外の教育の役割と課題を探究させる。)				
10	幼児期の教育と家庭・地域			家庭における教育、地域における教育(テキストの記述から、グループごとに現状と課題をとらえ、発表し批判し合う機会とする。)				
11	体罰と虐待の法律問題			懲戒・体罰、虐待への法のかかわり(事例や映像資料にもとづいて実態をとらえ、法による対処のスキルを身につけさせる。)				
12	保育者と労働問題			保育者の労働権とサービス、保育者の勤務条件(テキスト、プリントにより知識を整理するワークを課す。)				
13	保育事故と法的責任			幼稚園・保育所における事故防止の責任、事故発生時の法的責任(テキスト、プリントにより知識を整理するワークを課す。)				
14	幼稚園・保育所経営			幼稚園・保育所経営のあり方、クラス経営の望ましい姿(あらましを説明し、それぞれの経営について仮想し、グループで意見交換する。)				
15	教育行財政			教育行政・教育財政とは、中央教育行政組織と教育委員会制度(テキスト、プリントにより知識を整理するワークを課す。)				
テキスト		小林建一：『保育に役立つ教育制度概説』(三恵社)						
参考文献		『保育六法(第2版)』(信山社)						

科目名	保育者論	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	—
							レポート	40%
担当者	安藤 節子	単位数	2	学年・期間	2 年 後 期		提出課題	40%
							授業態度・意欲	20%
授業の ねらいと概要	保育者の役割、職務内容を理解する。 保育における幼児理解の重要性を自覚し、具体的な理解について学ぶ。 社会の変化と保育の歴史を学びこれからの保育について考える。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所の1日と保育者の動きを意識する。 ・生活者としての保育者の役割を理解する ・環境の構成と再構成について学ぶ 							
学習者への期待 (含準備学習)	保育全般について、広く問題意識を持ってほしい。 豊かな人間性を持ったひとりの人としてすべての生活を見直してほしい。 保育における環境に関心を持ってほしい。							
回	授業計画	授業内容						
1	幼児理解の実際	学生の事例から						
2	同上	学生の事例から						
3	同上	学生の事例から						
4	保育の環境をとらえる	実践事例						
5	同上	実践事例「環境の再構成」						
6	遊びを通しての総合的な指導	自然物での遊び						
7	同上	素材での遊び						
8	保育の形態について	一斉保育と自由保育						
9	協働的活動とは	活動の歴史的变化						
10	発達の時期に応じた保育	ビデオ視聴から						
11	同上	事例研究						
12	家庭との連携	実践事例「ロボットカミイ」						
13	地域との連携	同上						
14	生活者としての保育者	保育における生活について						
15	保育者のチームワーク	保育者としての生き方						
テキスト	『保育用語辞典』・『幼稚園教育要領解説』・『保育所保育指針解説書』・『幼稚園真諦』 『最新保育講座6 保育方法・指導法』							
参考文献								

科目名	福祉基礎理論	必修・選択	必修	授業形態	講義	評価の方法	試験	80%
							レポート	—
担当者	藤原 法生	単位数	2	学年・期間	1 年 後 期		提出課題	—
							授業態度・意欲	20%
授業のねらいと概要		社会福祉の基本的理念や制度について学びながら、現代の福祉問題やその対象者について考える。						
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉の基本的理念を理解する。 普段の生活と社会福祉の関連性について理解する。 各種制度や社会資源に関する知識を身につけ、必要に応じて活用することができる。 						
学習者への期待 (含準備学習)		福祉問題とその対象者について、偏見のない正しい理解をしてほしい。新聞記事やニュースなどをとおして、社会福祉に関心をもってほしい。						
回	授業計画	授 業 内 容						
1	オリエンテーション	福祉とは何か、社会福祉の理念、社会福祉と児童家庭福祉						
2	現代社会の理解	少子高齢社会、家族と地域の変化						
3	社会福祉の歴史	日本と海外の社会福祉の歴史						
4	社会福祉の行政と財政	国と地方の行財政						
5	社会福祉の制度と実施体系(1)	公的扶助(公的扶助と社会保険、生活保護の目的・原理・原則)						
6	社会福祉の制度と実施体系(2)	公的扶助(生活保護の種類と内容)						
7	社会福祉の制度と実施体系(3)	公的扶助(生活保護の実施体制、保護の動向)						
8	社会福祉の制度と実施体系(4)	高齢者福祉(高齢者の理解、高齢者福祉の理念)						
9	社会福祉の制度と実施体系(5)	高齢者福祉(高齢社会対策、法体系)						
10	社会福祉の制度と実施体系(6)	高齢者福祉(介護保険制度)						
11	社会福祉の制度と実施体系(7)	障がい者福祉(障がいの理解、障がい者福祉の理念)						
12	社会福祉の制度と実施体系(8)	障がい者福祉(障がい者福祉対策、法体系)						
13	社会福祉の制度と実施体系(9)	障がい者福祉(障がい者の自立支援)						
14	社会福祉の制度と実施体系(10)	地域福祉(地域福祉の理念、コミュニティ)						
15	社会福祉の制度と実施体系(11)	地域福祉(住民参加、地域福祉の将来展望)						
テキスト		山縣文治・岡田忠克編：『よくわかる社会福祉』(ミネルヴァ書房)						
参考文献		なし						